

# 行政視察等報告書

令和2年12月25日

境港市議会  
議長 森岡 俊夫 様

会派名 きょうどう  
代表者 米村 一三

下記のとおり行政視察（調査・研修）を行ったので、その結果を報告します。

## 記

1 視察等期間	令和2年11月6日（金）
2 視察等先 及び内容	美保湾・島根半島をめぐるクルージング観光の可能性を探る  釣り船を保有するジョイフィッシャー社と美保関観光協会がタイアップして行っているクルージング観光の現地調査と事業内容を調査する。
3 視察等議員	米村 一三、岡空 研二、柗 康弘、平松 謙治、森岡 俊夫
4 総 経 費	合計（ 5名） 60,000円 （一人当たり 12,000円） ※一人当たり経費に端数が出る場合は円未満切り捨て
5 所 見 等	別紙のとおり

内 容：美保湾・島根半島をめぐるクルージング観光について

担当者：ジョフィッシャー 大原 章氏

松江観光協会美保関町支部 事務局長 住吉 裕氏

所見等：

「水木しげる」をテーマとして観光振興を展開してきた本市の次の観光施策の一つとしてのテーマを作り出す必要を感じていたところ、一般社団法人松江観光協会美保関支部において、「島根半島塩クルージング」展開していることを知り、実際の体験を試みることにした。

境港公共マリーナを発進基地として、釣り船事業を展開する「ジョイフィッシャー」の大原船長の言によれば、公共マリーナから出発し、美保湾沖からの白砂青松の弓ヶ浜、大山、そして美保湾の眺望は、他では見ることの絶景で眺めるだけで心が穏やかになると表現されている。「インパルスSIブルー」に乗船しての視察当日は、天気も良く風もない好条件で、まさに大原船長の言葉通りの風景であった。

「島根半島ジオクルージング」が実施しているコースを辿ろうとのことで、境港公共マリーナを出発し、美保関港へ向かう。出発して10分ほどで美保関港に到着し、松江市観光協会美保関支部の住吉裕事務局長に乗船いただき、観光スポットの説明を聞きながらコースを巡って行く。

まずは地蔵崎を目指す。途中に「猿岩」、「ライオン岩」と称される祈願の説明を受ける。この地層は約2000万年のものだと聞き「ジオクルージング」として売り出した事に納得した。海上から見える美保関灯台は、世界の灯台100選に入っており、日本は3つの灯台が選ばれているとのことだ。

「地の御前」を経ながら「オの浦」、「軽尾」方面へと向かう。途中で緑色の泥岩の海岸線が見えるが、美保関町の「青石畳通り」に使用されている岩石と同種のものとの説明があった。また、岸壁にできた洞窟など見どころがいっぱいである。

ここから折り返し、「沖の御前」へとむかう。この移動の間に、「国引き」、「国造り」、「国譲り」の神話の開設があり、乗客を飽きさせない。「沖の御前」から望む大山は格別の風景を醸し出す。えびす様がタイ釣りをしたとの言伝えのある「沖の御前」には釣り人が太公望気分を満喫されている様子であった。

此の後、美保関を経由して、「男女岩 めおといわ」、「獅子が鼻」の名称のある場所を巡りながら、4月に行われる「青芝垣神事 あおふしがきしんじ」、12月の「諸手船神事もろたぶねしんじ」、や「関の五本松」のいわれなどを聞きながらクルージングツアーは終わりを告げ、本拠地の公共マリーナに向かった。

このツアーの成否はガイドさんの説明にあると感じた。ガイドを務めて頂いた住吉事務局長は、島根半島の持つ魅力や見どころ、美保関町にある神話・神事や言伝えなどを淀みない口調で伝える豊富な知識があっこそ可能なのであると思わせる技量を持っておられた。

このクルージング観光の境港版を考えるには、美保関町の持つ多彩の魅力に加えて、境港にある、夢みなとタワー、境夢みなとターミナル、高度衛生管理型市場や水揚げされる魚種の説明などやお台場と忠霊塔にまつわる出来事などを付け加え、水木しげるロード散策とセットにした新たな観光が可能ではないかと感じたところです。

報告者 米村 一三